



昭和十三年三月

常州駐屯間内務規定

獨立攻城重砲兵第三大隊



1041

常州駐屯間内務規定ヲ本書ノ通り定ム

昭和十二年三月十六日

大隊長 万波少佐

1042

目次

第一章	總則
第二章	日課時限、起居及容儀
第三章	諸勤務(將校勤務、下士官勤務、衛兵勤務、當番勤務)
第四章	火災豫防、消防、非常呼集
第五章	命令下達及會報
第六章	連絡
第七章	郵便物
第八章	休日及外出出張
第九章	慰安所使用規定
第十章	軍機保護及防諜
第十一章	支那人ノ取扱
第十二章	炊事及入浴
第十三章	衛生

第 四 章	酒 保
第 五 章	文 書 及 帳 簿
第 六 章	檢 査
第 七 章	雜 則
附 表	
第 一	日 課 時 限 表
第 二	衛 兵 編 成 表
附 圖	
第 一	宿 營 地 附 近 要 圖
第 二	公 用 証 外 出 証 ナクシテ 行 動 シ 得 ル 地 域 要 圖

第一章 總則

第一 本規定ハ常州駐屯間ニ於ケル内務實施要領ヲ定ムルモノトス

第二 警備間ニ於ケル内務ハ軍紀、風紀ノ嚴肅及次期作戰準備

ニ重点ヲ置キ實施スヘキモノトス

第三 常州城内大隊宿營地ノ細部附圖第一ノ如シ

第二章 日課時限、起居及容儀

第四 宿營間ニ於ケル日課時限ノ標準附表第一ノ如シ

但シ天候、季節、情況等ニ依リ一部變更スルコトアリ

第五 主要ナル時刻ニ於テ、砲廠衛兵ヲシテ喇叭ヲ吹奏セシム

又細部ノ時限通報ハ各隊ニ於テ適宜規定スルコトヲ得

第六 起居ハ兵營生活ニ準シ嚴正ナラシメ節制ヲ保チ徒ラニ放

縱ニ陷ルヲ許サス

第七 日朝点呼及日夕点呼ハ規定ノ時刻ニ於テ各隊毎ニ概ネ

日直下士官之ヲ實施シ後異狀有無ヲ各隊長及ヒ部隊  
日直將校ニ報告スルモノトス。部隊日直將校ハ右点呼異狀  
有無ヲ口頭又ハ電話ヲ以テ露營日直將校ニ報告スモノトス  
第八 各隊長及勤務將校ハ時々宿舍ヲ巡察シ下士官兵ノ閲讀  
書籍、新聞、雜誌類ヲ点檢スヘシ。

現況ニ鑑ミ適當ナラスト思惟セラレモノハ適宜處分スルト  
共ニ其ノ情況ヲ速ニ報告スヘシ

第九 常ニ服装ヲ整ヘ頭髮ヲ通常短カク剪リ身體被服ヲ清  
潔ニシ容儀ヲ正シクスヘシ

第十 水ノ使用ハ節約スルトニ慣シメテ炊事場、浴場附近ノ清潔ヲ徹底セシム

第十一 各隊毎ニ毎朝朝禮ヲ實施シ皇居ヲ遙拜、勅諭ヲ奉誦シ  
精神訓話ヲ行ヒ皇軍意識ヲ徹底セシムヘシ  
大隊長、行フ朝禮ハ概テ月ニ一回トシ其ノ實施ハ其ノ都度示ス  
トス。又敬備間ニ於テ敬禮ハ特ニ嚴格ニ實施スヘシ

### 第三章 諸勤務

第十二 諸勤務ヲ分テ將校勤務、下士官勤務、衛兵勤務、當番勤務

ノ四トス

第十三 將校勤務ヲ分テ露營日直將校、同巡察將校、部隊日直將校、同巡察將校トス

第十四 露營日直將校及同巡察將校ハ概ネ中尉以上ヲ以テ之ニ充當

シ服務セシム

服務ハ露營命令、露營勤務規定ニ依ルヘシ

第十五 部隊日直將校及同巡察將校ハ概ネ少尉、准尉ヲ以テ之

ニ充當シ服務セシム

部隊日直將校ハ各隊日直下士官ノ点呼報告ヲ受け要スレハ之ニ立會ヒ又衛兵ノ交代ヲ統轄スルモノトス

部隊巡察將校ハ主トシテ衛兵ノ勤務狀態、宿營地附近軍人軍屬ノ服裝態度、敬禮及支那人ノ動靜等ヲ巡察シ

取締ルモノトス

第十六 各隊ハ日直下士官ヲ設ケ点呼衛兵交代等立會セシメ部隊日直將校及向巡察將校ヨリ必要ノ區處ヲ受ケシムヘシ

第十七 各隊ハ必要ニ應シ日直上等兵ヲ設ケ日直下士官ノ業務ヲ補佐セシムルコトヲ得

第十八 衛兵勤務ヲ分テテ露營衛兵(大南門衛兵及自安維持會衛兵)部隊衛兵、砲廠衛兵ノ三トナス

第十九 露營衛兵ハ露營地區ノ重要ナル場所ニ位置シテ警備ニ任スルモノニシテ其ノ編成ハ附表第二ノ如ク勤務日割ハ露營命令ニ依ルモノトス

第二十 部隊營兵ハ各隊毎ニ隊長、宿舍附近ニ設ケ各隊宿舍附近ノ警戒及火災予防等ニ任スルモノニシテ其ノ編成ハ各隊毎ニ規定スヘシ兵力ハ概ネ十名内外ヲ標準トス

第二十一 砲廠衛兵ハ砲廠ニ位置シテ火砲、彈藥、燃料ノ警戒對空



監視、出入者ノ取締等ニ任スルモノニシテ其ノ編成ハ附表第二  
如ク差出區分ハ大隊命令ニ依ルモノトス

服務ノ細部ハ砲廠衛兵守則ニ據ルヘシ

第三當番勤務ヲ分テテ通信當番、炊事當番、傳令等トス

第三通信當番ハ各隊間ニ構成シアル電話線中、百隊電話機  
ノ位置ニ在リテ電話連絡ニ任スルモノニシテ通信手ヲシテ  
概ネ一日交代ニテ勤務セシムルモノトス

第三炊事當番ハ各隊ニ於テ概ネ各班又ハ各宿舍毎ニ設ケ炊  
事勤務ニ服セシムルモノニシテ一日交代トス

第五傳令ハ必要ニ應シ隊内相互間又ハ他部隊間ニ於テ命令  
報告、通報等ノ傳達ニ任スルモノトス

#### 第四章 火災豫防、消防非常呼集

第三六宿營地附近ニ於ケル火災予防ハ各級幹部以下周到ナル注

意ヲ拂ヒ之カ絶無ニ邁進スルヲ要ス

火災ヲ防ノ爲炊事場 暖炉焚火 煙草吸殻等ハ特ニ注意ヲ倍蕪シ就寢時ニ必ス点檢スヘシ

第十七 加ソリン置場 彈藥置場 砲(車)廠附近ニ於テハ喫煙ヲ嚴禁ス

第十八 衛兵タルト否トテ問ハス火災ヲ發見シ遲滯セハ大事ニ至ルヘキヲ察知セハ直チニ應急ノ處置ヲ講スルト共ニ最寄部隊通報スル等遺憾ナキヲ期セサルヘカラス

第十九 各隊ニ於テ所要ノ消防隊ヲ編成シ宿舍附近ニ消防用水ヲ貯ヘ非常ノ用意ニ具フルヲ要ス

第二十 火災其他必要アル場合ニ於テハ各隊ニ於テ非常召集ヲ實施シ機宜ノ處置ヲ實施スヘシ

非常召集ニ於ケル集合場ハ各隊警急集合場トシ大隊全部ノ非常召集ニ於テハ別命ナキ限り更ニ大隊集合場ニ集合ス

ルモトス

第三 警備上必要ナル非常呼集（警言急姿勢）ハ別冊常州駐屯  
警備規定ニ據ルモトス

1051

### 第五章 命令下達及會達

第三 命令下達及會報ハ通常午后四時トシ別命ナキ限り將校ノ

命令受領集合スルモトス

但シ人員、行事、出張、不在等ノ爲止ムヲ得ナル場合ニ於テハ  
此ノ限りニアラス

第三 命令下達及會報時刻ハ此ヲ嚴守シ他ニ迷惑ヲ與ヘサ

ルヲ要ス

第三 命令ヲ分ケテ作戰命令並日々命令トス

第五 命令並重要ナル會報事項ハ命令受領者ヲ集メ口達筆記

セシメ後刻印刷セルモノヲ交付シ又簡單ナル會報ハ單ニ口

達ニ止ルヲ通常トス

第五 命令並會報ノ徹底ハ迅速確實ナルヲ要ス

衛兵下番者出張ヨリノ歸還者等ニ對スル傳達ヲ志ルヘカラス

## 第六章 連絡

第七 連絡ヲ分ケテ隊内相互間ノ連絡並上級部隊他部隊ト連

絡ノ二トナス

第八 隊内相互間ノ連絡ハ構成セル電話線ニ據ルノ外會報時

又ハ傳令ヲ利用スルモノトス

第九 砲兵隊司令部トノ連絡ハ常州部隊交互ニ服務シ

概テ四日毎ニ循環スルモノトス細部ハ露營命令ニ依ル

自隊ニテ砲兵隊司令部ニ連絡セサル場合ハ通常松村部

隊ニ於テ書類會報等ノ授受ヲ行フモノトス

松村部隊トノ連絡ハ電話ニ依ルヲ普通トス

第甲 砲兵隊司令部松村部隊ト、連絡ハ連絡班ノ擔任トス  
砲兵隊司令部松村部隊間ハ無線ヲ以テ毎日概ネ午前十時

第甲 正午 午後三時 午後六時 午後十時ノ五回ニ亘リ連絡シアリ  
急ヲ要スルモ、其他特ニ必要アル場合使用スルモノトス  
第甲 軍司令部間ノ書類授受ハ別冊第三師團公文書送達規  
定ニ依ル、外上海ニ至ル出張者ニ依頼スルモノトス

## 第七章 郵便物

第甲 郵便物(手紙葉書)ノ内地發送ニ當リテハ各人軍事秘密  
ニ屬スル事項ハ一切之ヲ避ケ防諜上特ニ注意スルヲ要ス

第甲 發送郵便物ハ各隊ニ於テ取纏メ副官ノ下ニ呈出スルモノトス  
此ノ際各隊ニ於テモ一應点檢ノ上異狀アル者ハ現場ニ於テ發  
送ヲ停止シ直接本人ニ注意ヲ與フ

第甲 副官ハ各隊ヨリ提出セル郵便物ヲ点檢シ異狀ナキモノトシ

捺印ノ上發送セシムモノトス  
第六 發送郵便物ノ隔日毎(奇數日)ニ鎮江野戰郵便局ニ運搬シ

同時ニ内地ヨリノ郵便物ヲ受領ノ上歸還通常本部衛兵所  
前ニ於テ各隊ニ分配スルモノトス

鎮江郵便局ニ至ル郵便物送受ハ各隊ヲシテ交互ニ勤務  
セシム 勤務日割ハ毎月命令ニ依リ之ヲ示ス

第七 郵便物分配後他隊ノ分混入シアルトキハ速カニ傳達ノ手續  
ヲ取り迷惑ヲ及ホササルヲ要ス該傳達ハ各隊日直下士官  
ノ責任トス

第八 部隊以外ノ者ノ郵便物混入シアル場合ニ於テハ速ニ郵便局  
ニ返納シ該部隊宛發送ノ手續ヲ取ルモノトス 該發送ハ  
副官ノ責任トス

第九 内地宛小包ノ發送ハ一般ニ禁止ス  
但シ特別ノ場合ニ於テハ副官ヲシテ原隊宛ニ發送セシメ爾

後各人留守宅ニ届ケシムルコトアリ

第卅 爲替ノ内地發送ハ各隊幹部以下成ルヘク之ヲ勵行スヘシ

其ノ發送ハ別冊爲替發送規定ニ據ルモノトス

第卅 封書内ニ紙幣、株券等一般ニ軍ニ於テ禁止セラレタル物件

ヲ封入スルヲ嚴禁ス

又一封書内ノ紙數ハ普通便箋概ネ五枚ヲ超エザルヲ限度

トス

### 第八章 休日及外出出張

第卅 休日ハ通常慰安日(木曜)其他兼アル場合(例ハ天長節

陸軍紀念日其他隊長ニ於テ特ニ指定シタルトキ)ノミトス

第卅 兵ハ休日ニ於テ宿營地外ニ出テントスルトキハ少ス外出証ヲ

携行スヘシ

又休日以外ノ日ニ於テ一般ニ公用ノ外外出ヲ禁止ス

休日以外ノ日ニ於テ外出又ハ出張セントスル者ハ必ス公用証  
ヲ携乃行スヘシ

第五五 公用証及ヒ外出証ハ概ネ軍隊内務書ニ示ス様式ニ基

キ各隊ニ於テ發行スルモノトス

第五五 外出又ハ出張シタルトキハ服装態度ヲ嚴正ナラシメ皇軍ノ

名譽言ヲ傷クルカ如キコトアルヘカラス

第五六 常州以外ノ地ニ出張スルハ一般ニ公用ノ場合ニ限ル

上海ニ出張スル者ハ軍司令部ヨリ示サレタル別冊「上海市内南

市ヲ含マス」ニ於ケル軍人軍屬取締規定ニ據ルヘシ

第五七 慰安所ニ至ル外出ハ第九章慰安所使用規定ヲ参照スヘシ

第五八 公用証、外出証ナクシテ行動シ得ル地域ハ一般ニ部隊宿

營地内ニシテ細部ハ附圖第三ノ如シ



第九章 慰安所使用規定

第五 方針

緩和慰安ノ道ヲ講シテ軍紀肅正ノ助トナサントスルニ在リ

第六 設備

慰安所ハ日華會館南側圍壁内ニ設ケ日華會館附屬建物及下士官兵棟ニ區分ス

下士官兵ノ出入口南側表門トス

衛生上ニ関シ樓主ハ消毒設備ヲナシ置クモトス

各隊ノ使用日ヲ左ノ如ク定ム

星	部隊	日	曜日
栗岩	部隊	月	火曜日
松村	部隊	水	木曜日
成田	部隊	土	曜日
阿知波	部隊	金	曜日

村田部隊 日曜日

第六

其他臨時駐屯部隊ノ使用ニ関シテハ別ニ示ス  
實施單價及時間

1. 下士官兵、營業時間ヲ午前九時ヨリ午后六時迄トス  
2. 單價

使用時間ハ一人一時間ヲ限度トス

支那人 一円〇〇錢

半島人 一円五十錢

内地人 二円〇〇錢

以上ハ下士官、兵トシ將校(准尉含ム)ハ倍額トス

(防毒面ヲ附ス)

第六

検査

毎週、月曜日及金曜日トシ金曜日ヲ定例検査日トス

検査時間ハ午前八時ヨリ午前十時迄トス

第六十三

検査主任官ハ第四野戦病院醫官トシ兵站ヲ備病院  
並各隊醫官ハ之ヲ補助スルモノトス、検査主任官ハ其ノ結  
果ヲ第三項部隊ニ通報スルモノトス

慰安所利用ノ注意事項左ノ如シ

1. 慰安所内ニ於テ飲酒スルヲ禁ス
2. 金額支拂及時間ヲ嚴守ス
3. 女ハ總テ有毒者ト思惟シ防毒ニ関シ万全ヲ期スヘシ
4. 營業者ニ對シ粗暴ノ行爲アルヘカラス
5. 酒氣ヲ帶ヒタル者出入ヲ禁ス

第六十四 雜件

1. 營業者ハ支那人ヲ密トシテ探ルコトヲ許サス
2. 營業者ハ酒有茶菓ノ饗應ヲ禁ス
3. 營業者ハ特ニ許シタル場所以外ニ外出スルヲ禁ス
4. 營業者ハ總テ檢査ノ結果合格証ヲ所持スルモノニ限ル

第六五 監督擔任

監督擔任部隊ハ憲兵分遣隊トス

第六五 附加事項

1 部隊慰安日ハ木曜日トシ當日ハ各隊ヨリ使用時限

ニ幹部ヲシテ巡察セシムルモトス

2 慰安所ニ至ルトキハ各隊毎ニ引率セシムヘシ

但シ卷脚胖ヲ除フコトヲ得

3 毎日十五日ハ慰安所ノハム休日トス

第十章 軍機保護及防諜

第六七 軍機保護及防諜ハ中支那派遣軍防諜實施規定ニ

依ルノ外本章ノ規定ニ據ルモトス

第六八 自隊防諜ノ爲左ノ委員ヲ設置ス

防諜主任 連絡掛將校 富山中尉

防諜副主任 副官

岡田少尉

防諜主任ハ全般及ヒ外部トノ連絡、外部ニ對スル調査、交渉等ニ任スルモノニシテ、防諜副主任ハ主トシテハ公文書、郵便物支那人ノ取締等ニ任スルモノトス。

第六九 防諜實施ノ爲ニハ各人ノ自覺責任觀念ヲ第一トシ幹部ノ監督取締ヲ第二トス。

此カ爲テ注意スヘキハ私信ノ記載、支那人ノ取扱不用意ノ言動、命令通報報告其他機密圖書物件ノ取扱保管等トス。

第七十 防諜實施ニ當リテハ軍事上ノ秘密ニ對スル認識ヲ兵ニ至ル迄普及徹底セシメ、特ニ秘密事項カ外國人ノ手ニ渡リタル場合ニ於ケル軍事上ノ不利ニ関シ深厚且不斷ノ教育ヲ行ヒ之カ保全ニ関スル責任感ヲ強化スルコト特ニ緊要ナリ。

第七十一 宿營地附近ニ於ケル部隊號ノ標示ハ成ルヘク假名ヲ使用スルカ又ハ適宜ノ略号ヲ使用スヘシ又落書ハ一切嚴禁ス

第七十二 防諜上支那人ノ取扱ニ関シテハ第七章ヲ参照スヘシ

### 第十一章 支那人ノ取扱

第七十三 宿營地内ニハ一般支那人ヲ入ルヲ禁ス

但シ部隊長ニ於テ特ニ許可シ腕章ヲ附シテ者(例ハ物理髮屋)ハ此ノ限リニアラス

然レトモ該者ニ對シテモ監視ヲ怠ルニトアルヘカラス特ニ事務室、幹部室ノ出入ニ於テ然リ

第七十四 支那人ノ使役ハ最少限ニ止メ成ルヘク各隊自ラ實施スヘシ

第七十五 炊事場ニ使用スル支那人ニシテ往々不潔ナル者又ハ不潔ナル動作ヲナスモノアリ衛生上注意ヲ要ス

第七十六 支那人子供ノ出入ハ一般ニ看過シ易キモ子供ト虽モ支那人大

人ト同様必要以外出入使用ヲ禁ス

第七七 宿營地附近ニ生活スル一般支那人家屋ニ出入スヘカラス

第七八 宿營地附近ニ来リ商賣セントスル支那商人ハ一切出入セ

シムヘカラス

又該商人ノ物品購買ヲ禁ス

### 第十三章 炊事及入浴

第七九 警備間炊事ハ各隊ト母ニ實施シ其ノ都度主計ヨリ現

品ノ支給ヲ受クルモノトス

第八十 炊事場附近ニ於テハ清潔衛生ヲ第一トシ濫リニ支那人

ヲ使用スルヘカラス

第八十一 炊事ニ使用スル井戸水ニハ特ニ注意ヲ倍徒スルヲ要ス

軍醫ハ時々各隊井戸水ノ検査ヲ實施スルモノトス

第八十二 入浴ハ努メテ勵行シ常ニ身体ヲ清潔ニ保持シアルヘシ

入浴場ハ各隊概ネ各宿舍毎ニ設備スルモノトス

第八十三 水及燃料ノ節約ニハ特ニ注意シ又火災予防ヲ徹底

セシムルヲ要ス

### 第十三章 衛生

第八十四 宿營間衛生ニハ特ニ深甚ノ顧慮ヲ拂ヒ絶對ニ疾病

ニ罹ラサルヲ要ス

第八十五 衛生成績向上ノ爲早期診斷ノ勵行花柳病傳染病

ノ予防等ニ於テ萬遺憾ナキヲ要ス

第八十六 軍醫ハ月ニ概ネ二回衛生講話ヲ宣員施スヘシ

### 第十四章 酒保

第八十七 日用品及食糧品購賣ノ爲本部附近ニ酒保ヲ開設

ス成ルベク自隊酒保ヲ利用スヘシ



第九八 酒保品購入ハ主計ノ擔任トシ酒保全般ノ取締ハ酒保  
委員ノ擔任トス

第九九 酒保品ハ特ニ示ス場合ノ外他隊ノ者ニモ販賣スルコトヲ  
得但シ帝國軍人軍屬ニ限ル

第九十 支那人ニ對シテハ酒保品販賣ヲ禁ス

又必要以外酒保附近ニ立入ラシムヘカラス

第九十 酒保ハ常ニ清潔ニ保チ場内ニ飲食場ヲ設備スルモノトス  
第九十 酒保開設ノ時間ハ一般ニ午前九時ヨリ午後六時迄トス

但シ止ムヲ得タル者ハ該時間外ト虽モ酒保委員ノ許可  
ヲ受ケタル後購買スルコトヲ得

第十五章 文書及帳簿

第九十三 文書及帳簿ノ取扱ハ一般ニ軍隊内務方書ニ依ルモノトス

第九十四 文書及帳簿ハ常ニ整理ヲ實施シ關係以外ノ者支

第九十五 那人等ヲ近ツカシムルコトアルヘカラス  
秘・密圖書ハ概ネ月一回検査ヲ實施スヘシ

第十六章 検査

第九十六 各隊毎ニ概ネ月二回内務検査、兵器検査、被服検査  
ヲ實施スヘシ

第九十七 右ノ外時々書籍、雜誌類ノ検査、軍裝品検査、所  
持品検査等ヲ實施スルモノトス

第九十八 検査ノ結果ハ筆記又ハ口頭ニ依リ報告スヘシ

第十七章 雑則

第九十九 慰安ノ目的ヲ以テ行ク余興ノ通常大隊長ノ承認アル日ノミトス  
第百 時々開催セラル陣中慰問(活動寫真、音樂等)ニハ  
各隊毎ニ引率ノ上成ルヘク出場セシムヘシ

時 刻	日 課	時 限	表
午前七時	起床	日朝點呼	
午前八時	朝 食		
午前九時	朝 禮		
正 午	書 食		
午后四時	會報	衛兵交代	
午後六時	夕 食		
午後九時	日夕點呼		
午後九時半	就 床		
備	一 訓練ハ通常 <small>自午前九時及ヒ至午后一時ノ間トス</small> 二 本表ハ季節其他都合ニ依リ若干變更 スルコトアリ 變更ノ際ハ其ノ都度示ス		
考			

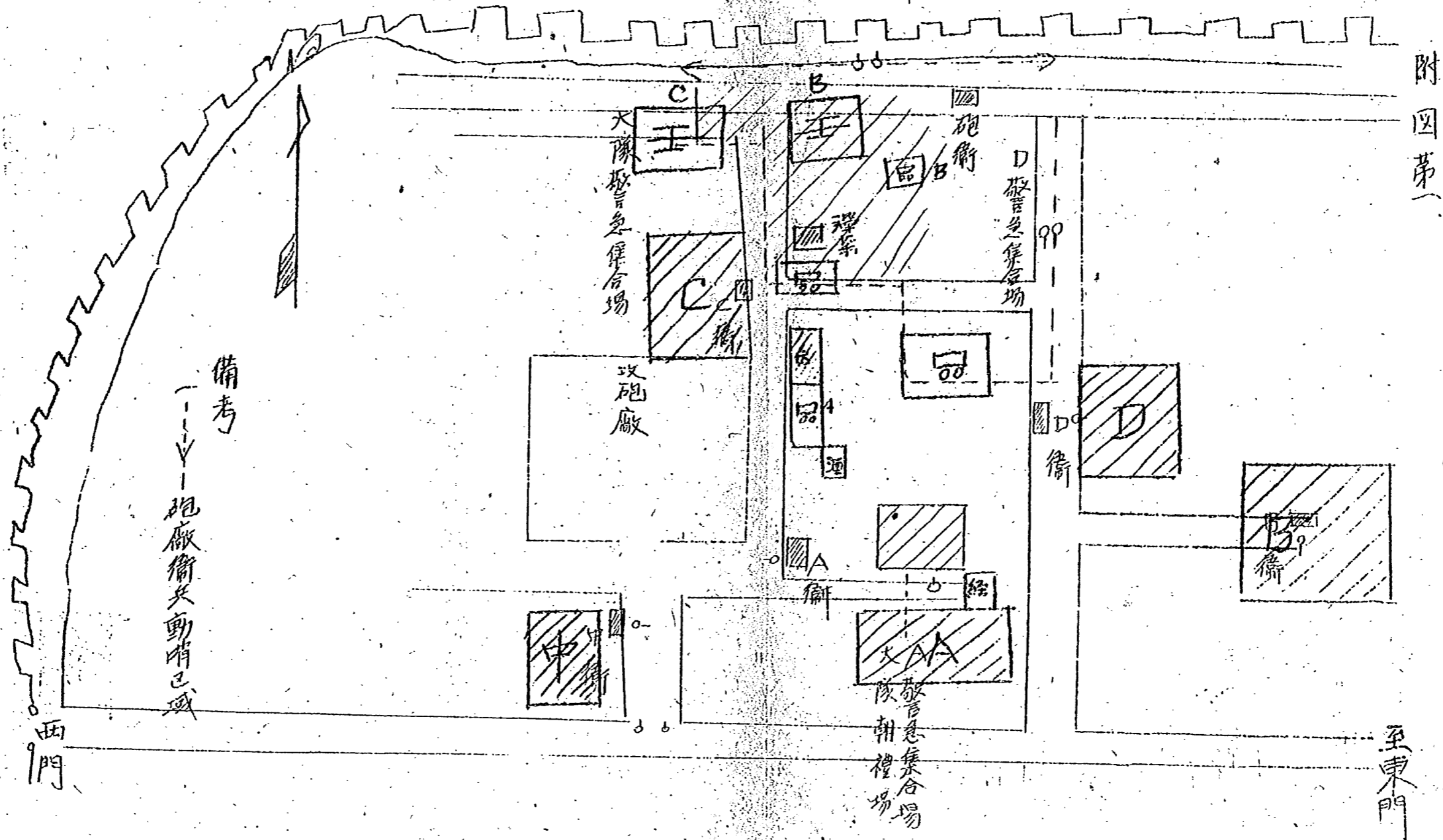
附表第三

衛兵編成表

備考	露營衛兵		部隊衛兵 (各隊共)	砲廠衛兵	種別	
	治安維持會衛兵	大南門衛兵			下士官	上等兵
一部隊營兵ハ各隊毎ニ實施シ表ニ示ス兵力ハ標準ヲ示スモノトス 二本表ハ都合ニ依リ若干變更サルコトアリ						
	一	二	二	二	兵	
	三	六	六	一五	喇叭手	
				一		
	四	九	九	一九	計	

14

獨立攻城重砲兵第二大隊常州城外宿營地配置圖

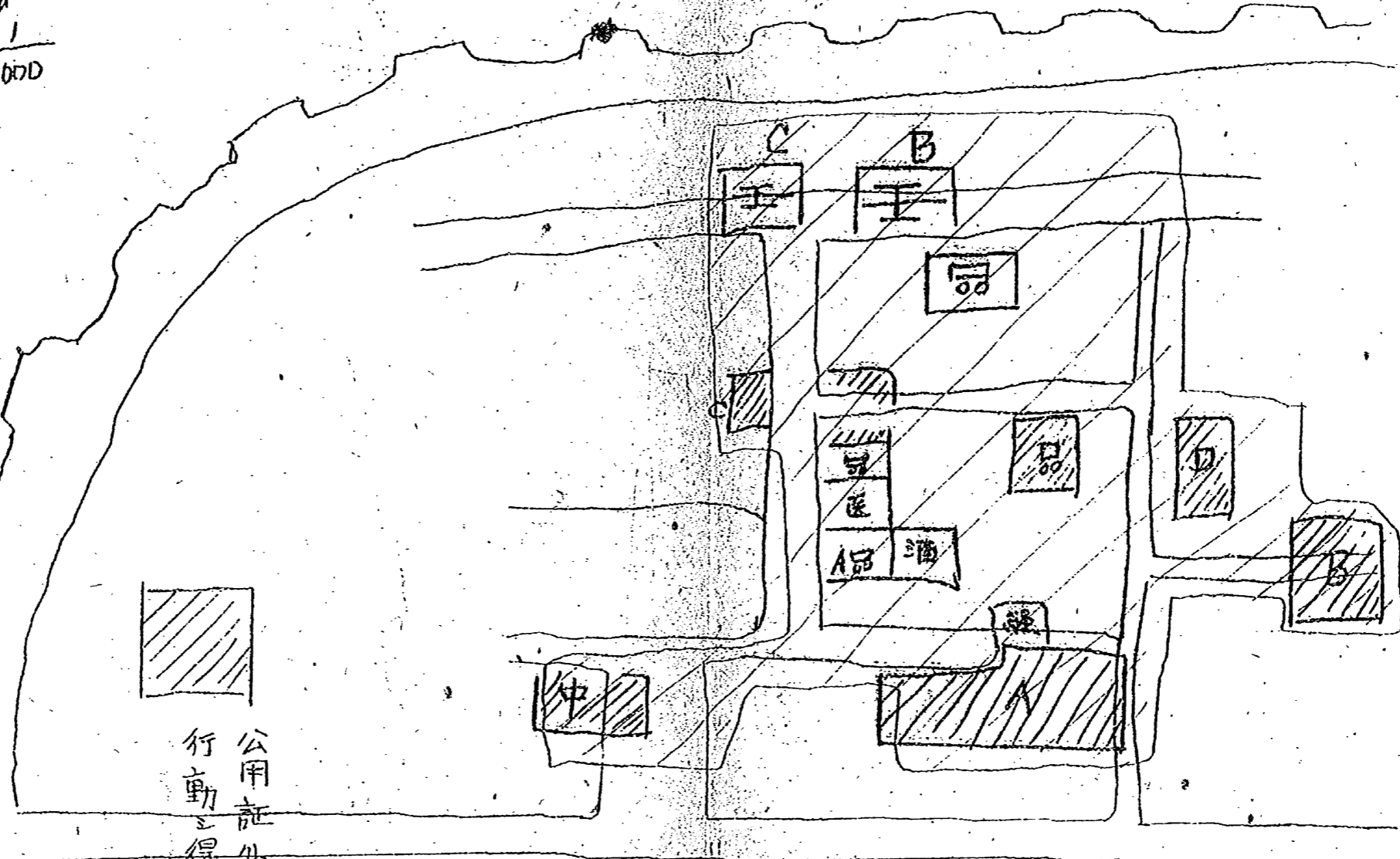


附圖第一

至東門

公用証外に出る証ナリシテ  
行動し得ル地域要図

附圖



公用証外に出る証ナリシテ  
行動し得ル地域